

クオリティで勝負する 日本茶

世界中で緑茶の健康に対する効果が注目され、ここアメリカでも日本茶が飲まれるようになった。しかし、美味しさの観点から味わうその魅力はまだ充分に知られていないとはいえない。「コーヒー文化の国アメリカで、純粋で美味しい日本茶の味を知ってもらいたい」と、シアトルを拠点に静岡の銘茶を紹介するのが「Sugimoto America」だ。

1:「農家との関係を大切に」がポリシーだった1代目の善一さん。農家から引き受けたお茶を、自ら販売して回った

2:昭和初期の茶園風景

3:2代目の博行さんが受賞した茶審査技術大会優勝・農林水産大臣賞の賞状

4:杉本製茶では生産農家から毎日届く茶葉の中から、特に納得がいくものを優先的に引き受けブレンドし、独自の焙煎方法でクセのない香り高い味わいを実現している

5:サンフランシスコで開催された「ファンシーフードショー」にて。まずは試してもらいたい、という気持ちから展示会参加やデモ販売に積極的に取り組むSugimoto America



一枚のファックスから始まった

「杉本さんのお茶を売ってくれませんか」。お茶の名産地、静岡の杉本製茶に、シアトルから届いた一枚のファックス。これがこの始まりだった。“杉本のお茶”のファンだというこのアメリカ人からのリクエストで、1998年からダンボール1箱程度のお茶をシアトルに送るようになった杉本製茶。送られた商品はすぐに品切れとなり、注文もだんだんと増え、間もなくダンボールがコンテナ輸送となった。「そこで本格的な販売に取り組もうと、2005年にシアトルに現地法人を設立したというわけです」とアメリカ進出の経緯を話すのは、「Sugimoto America」の代表を務める杉本恭平さん。2008年には念願のアメリカ向け自社ブランド「SA」の発売も開始した。印象深いのは、このブランドのパッケージとロゴのモダンなデザインだ。「一度飲んでもらえたら、決して忘れられないように、あえて伝統的なイメージから離れてみることにしました」と杉本さん。一度飲んでもらえたらー。この味への自信は、杉本製茶と生産農家との信頼関係から築かれたものだ。



アメリカ向け自社ブランド「SA」のパッケージとロゴのデザインは、杉本のお茶に惚れ込んだ在米日本人デザイナーが手がけたという。SAは、Sugimoto Americaと、茶＝「サ」という日本独特の発音を掛け合わせている

生産農家と共に栄える

人口の約7割がお茶作りに関わっているという島田市(旧金谷町)。杉本さんの祖父、善一さんはその昔、原付バイクに乗ってこの土地の生産農家をたずね、そこで引き受けた茶葉をまたバイクで一軒ずつ配達して回ったのだという。これが杉本製茶のスタートだった。「祖父は『農家との関係を大切にしなければいけない』という強いポリシーを持っていました」。このポリシーは、杉本さんの父親であり、2代目である現社長の博行さんにしっかりと引き継がれた。全国茶審査技術の競技会、つまり利き茶で日本一になり、農林水産大臣賞を受賞した博行さんのもとには、その技術を信頼して収穫の時期には、毎日、生産農家が茶葉を持ち込んでくる。日によって異なるお茶の味を、博行さんは生産者と毎日一緒に吟味し、研究するのだという。そして、納得のいく茶葉を引き取り、独自のブレンドと焙煎を加えたものが、「杉本のお茶」となる。

その味の特長とは一。「プロはコクの強いすっきりとした味を評価する傾向があるのに対して、杉本では一般消費者が何杯でも飲みたくなる美味しさを追求しています。それは、クセがないのに香りが高く、喉越しの良い味わいだと思います」。この味へのこだわりを要に、杉本製茶は生産農家と2人3脚で、質の高さを維持し続けている。

メイド・イン・USAの

Japanese Taste of Made in USA

「日本の味」



利き茶・日本一の実力を持つ杉本製茶社長の博行さん



「健康のため」ではなく「美味しいから」飲む

「本物の香りや味わいを伝えることで、新しい楽しみ方を知ってもらいたい」という杉本さん。アメリカにおける緑茶は「体にいいから飲む」という人が圧倒的に多い中、「SA」がアメリカで目指すのは、健康のカテゴリから抜け出た、味や香りなど「質を味わう」高級ワインのような存在になることだという。質という観点から、アメリカのマーケットを開拓していくため、現在、杉本さんが積極的に取り組むのは、スーパーのデモ販売や展示会への参加など、実際に試してもらう機会を持つことだ。「一度気に入ってもらえればきっとリピートしてもらえと思っています」。それと同時に、背景にある祖父や父の道のり、こだわりといったストーリーも伝えていくことで、存在をアピールしていきたいという。

時に甘く、時に渋い、絶妙なバランス。日本人を魅了してきた日本茶の魅力は、海外でもきっと理解されるはず。杉本さんの挑戦は始まったばかりだ。



博行さんの次男で、シアトルを拠点にSugimoto Americaを展開する杉本恭平さん